

せいとつ病院です

● 特集

外科における

内視鏡下手術の進歩

● こんにちは探検隊

ひらの整形外科クリニック

●ズームアップがん医療は今

泌尿器科の病診連携の取り組み

●医療安全・感染対策 最前線

転倒転落予防について

●医療をささえる看護のちから

17病棟

●なるほど！なっ得！薬の話

胃薬の巻

●こんにちは体験ルポ

開胸開腹手術後リハビリテーション



理念 安心・安全

患者さんの安心・安全

職員の安心・安全

病院の安心・安全

基本方針

患者さんの人権を尊重し

インフォームド・コンセントを大切に

安心して任せられる医療とサービスを提供します

地域との連携を大切に かかりつけ医との協力のもと

24時間信頼される診療体制を充実させます

最新・最良の医療水準をめざして研修・教育に努め

チーム医療の推進を図ります

地域医療支援病院

日本医療機能評価認定病院

新日鐵八幡記念病院

<http://www.ns.yawata-mhp.or.jp>



特集

外科における 内視鏡下手術の進歩

最先端の技術、進化する低侵襲治療

内視鏡を使った外科手術が日本ではじまって約20年になります。この間、手術手技と器具の進歩により、対象臓器や対象疾患が広がってきました。今回は、私たちの最近の取り組みをご紹介します。

内視鏡下手術

皮膚を小さく切開して内視鏡をお腹や胸のなかに挿入し、画面を見ながら手術を行うものが内視鏡下手術です(図1)。腹腔鏡手術、胸腔鏡手術、鏡視下手術などと呼ばれていますが、実質は同じものです。

内視鏡下手術の長所は、きずが小さく痛みが軽いため回復が早い点にあります。また、小腸や肺に直接触れないことで、体への負担が小さくなるともいわれています。

消化器外科領域では、当初はがん以外の良性疾患がおもな対象でしたが、しだいに胃や大腸のがんの手術に応用されるようになってきました。私たちも早期がんを中心に、胃切除、大腸切除などを行ってきました。最近では、さらに対象疾患を広げて、食道手術、肝臓手術、脾臓手術などにも適用しています。



図1 鏡視下手術の様子

鏡視下食道切除術

食道は、肺と心臓に挟まれた胸の最深部にあります。食道を切除したあとは、胃や腸をのどの近くまで持ち上げてつなぎます。このため食道がんの手術は、胸部、腹部、頸部におよび、外科手術のなかでも体への負担（手術侵襲）がもっとも大きいもののひとつです。鏡視下手術により手術侵襲を少なくできる可能性があり、手術手技の工夫や器具の改良が進んできました。

胸部は胸腔鏡を用いることで、従来の肋骨を切断して大きく胸を開く手術から、1cm程度の切開が数か所ですむようになりました(図2)。痛みが少なく呼吸筋の損傷が少ないことと、肺を手で圧迫する必要がなくなったことで肺炎などの合併症予防に役立ちます。腹部も腹腔鏡を補助的に使うことで、従来の半分以下の5~7cmのきずですむようになりました。



図2 鏡視下食道切除後(右胸)

腹腔鏡下肝切除術

肝臓の手術は出血を制御することが重要です。従来、内視鏡下手術は困難とされてきましたが、手術器具の進歩によりしだいに普及し、2010(平成22)年からは腹腔鏡下肝部分切除術が保険適用になりました。通常手術では、右上腹部を20cm程度斜めに切開して開腹しますが、腹腔鏡下では5cm1ヶ所と、1cm3~4ヶ所の切開ですみます(図3)。

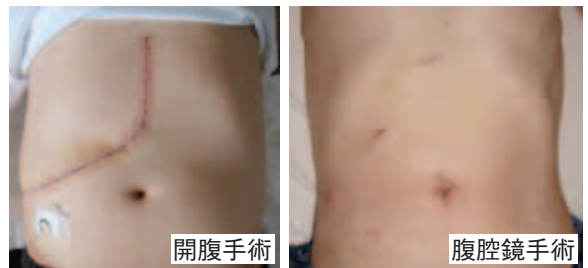


図3 きずの大きさの違い

腹腔鏡下脾臓摘出術

脾臓は左上腹部にあり、重さ100g程度の臓器です。肝硬変では2倍以上に腫れることがあります(脾腫; 図4)。血液疾患や肝硬変のかたで、脾臓摘出により病態の改善が期待できることがあります。

腹腔鏡下手術では、脾臓の血管の出入り口のところで自動縫合器と呼ばれる手術器械を使って切断します。5~7cmのきずで手術できます。



図4 脾腫

問題点

内視鏡下手術は問題点もあります。手術時間は通常手術よりも長くなります。手術機材の準備や設営はより手間がかかります。麻酔科医や手術室スタッフの協力があってはじめて安全に行えます。

早期がん以外のがんの治療で、通常手術にくらべて治療成績が劣っていないかどうか、まだわかっていません。現在、全国的に調査されているところです。

おわりに

適応のある患者さんが、適確な内視鏡下手術を受ければ長所は明らかです。今後はさらに研究がすすみ、内視鏡下手術はますます進歩して普及していくことでしょう。私たちは最新の技術を取り入れながら、患者さんにとってもっともよい外科治療が行えるように努力しています。



外科部長 池部 正彦

日本外科学会専門医
日本消化器外科学会専門医
日本食道学会評議員

ひらの整形外科 クリニック



今回探検隊は、北九州市民球場の近くにある「ひらの整形外科クリニック」を訪問しました。院長の平野 薫先生は新日鐵八幡記念病院をご退職後、2010(平成22)年4月小倉北区熊本に開業され、地域の方々の健康支援に貢献されています。

Q：貴院の特色を教えてください

A：従来の急性期外傷や痛みへの処置・ブロック注射などの一般整形外科治療に加えて、リハビリ・運動療法を中心とした治療をおこなっています。4名の理学療法士がおり、手術後やスポーツ外傷後のリハビリはもちろんのこと、加齢による変性疾患や慢性の痛みに対しても、運動療法の効果をあげています。
運動器の衰えを改善し、バランスを改善することで「若返り」を実現することができます。

Q：院長先生のモットーをお聞かせください

A：整形外科医として一人ひとりの患者さんをより深く、全人的に診させていただき、「人には皆、無限のエネルギー(=治療力)が宿っている」という

信念に基づいて、できる限りの治療を行っています。今ここに生きている奇跡を心から感謝して、今とともに生きている人々、今、周囲にあるものなどすべてに感謝したいと思います。人生120年。高齢化社会の今、「元気な老人をつくろう」「健康長寿をめざそう」ということをモットーに、スタッフ一同笑顔を絶やさず、患者さんの幸せのために全力を尽くしています。

Q：当院へのメッセージをお願いします

A：「感謝」の一言に尽きます。急性期医療やたくさんの方の手術経験から学ばせていただいたことを、これからの開業医人生にいかしていきたいと思いません。今後ともよろしくをお願いします。



院長 平野 薫先生



ひらの整形外科クリニック

北九州市小倉北区熊本1丁目4-6
TEL093-932-1770

診療時間

	月	火	水	木	金	土	日
9:00~13:00	○	○	○	○	○	○	△
14:30~18:00	○	○	○	△	○	△	△

白を基調としたモダンな造りが印象的で素敵なクリニックでした。そして、クリニックのドアを開けると、スタッフの方々が笑顔と優しい声かけで迎えてくれます。院内には、平野先生のモットーである「感謝と笑顔」であふれ、患者さんを大切にされている心遣いが感じられました。インタビューの最中にも、ご家族への愛情や温かさが伝わってきました。平野先生の若さの秘訣、「若くあるとする気持ちを持つ」も納得の取材でした。



今回の探検隊

看護部 黒澤 深雪
医事部 秋吉 裕美



泌尿器科部長
奥村 幸司

泌尿器科の病診連携の取り組み

膀胱がんスクリーニング

膀胱がんスクリーニングプログラム開始

近年、日本は高齢化社会に突入し、とくにこの八幡東区は国内でも非常に高齢化がすすんでいる地区の一つといわれています。このため、がんの患者さんは増加の一途であるとの印象を日々の診療で感じています。新日鐵八幡記念病院は、近隣の開業医の先生との連携(病診連携)を通じ、地域に根づいた診療を行うことを基本方針としていますが、それでもまだ進行性膀胱がん(手術のみでは助からない進行した状態)の患者さんが多い印象があります。

そこで、当院の病診連携のシステムを生かして、膀胱がんスクリーニングを行ってもらおうというプログラムを現在開始しています。

簡便で侵襲のない尿細胞診検査

膀胱がんは、肉眼的血尿が70%以上の症例でおこるため検診は不要といわれ、現在、日本では検診システムがありません。しかし、実際は尿潜血のみであったり、まったく血尿を認めないことも少なくありません。このようなケースの場合、泌尿器科専門医を受診しないとがんが見つからないため、放置すれば数

年で進行がんとなり、死に至ることもあります。このようなケースには、尿細胞診検査が有効です。

尿細胞診は、尿を提出していただくだけなので、侵襲もなく簡便に行えます。当院の膀胱がんの検討では、肉眼的血尿の既往と尿細胞診の異常で93%のケースが診断可能でした。診断できなかったのは7%で、全例が早期の表在性がん(進行が遅く、臨床的に数年後に見つかっても、手遅れにならない可能性が高いがん)でした。つまり、「肉眼的血尿の問診と尿細胞診提出」で膀胱がんのスクリーニングが可能なのです。

膀胱がんの早期発見のために

現在、より早期に膀胱がんを見つけるための取り組みとして、当院の登録医の先生方に以下のステッカーを配布し、膀胱がんスクリーニングを行っていただいています。

膀胱がんは前立腺がんと違って、進行すれば予後不良になるがんです。肉眼的血尿や尿潜血を指摘されている方は、ぜひ膀胱がんスクリーニングを受けてみてください。

膀胱がん患者を早期に見つけるためのスクリーニングのお願い

肉眼的血尿の既往の問診と尿細胞診の提出でほとんどの膀胱がんスクリーニングが可能です。

開業医の先生方へのお願い

40歳以上の方には肉眼的血尿の既往の問診と検尿をお願いします。

- 肉眼的血尿 → 泌尿器科へ紹介
- 尿潜血(+) → 細胞診を提出しclassⅢ以上なら泌尿器科へ紹介
- 尿潜血(-) → 頻尿症状があれば検尿を最低2回以上繰り返す



転倒転落予防について

転倒転落は、多くの病院や老人施設において、なかなか減らない問題のひとつです。

入院生活は、今までの自宅での生活環境と大きく異なります。

入院中の患者さんには、はきものの底がツルツルしているスリッパなどは滑りやすいので、ゴム底のものを準備していただいています。また、下の写真のような動作は、ベッドから落ちたり、転んだりする原因になりますので、注意していただくようお願いしています。

医療安全管理室管理師長 一瀬 悦子

●入院患者さんへお願い●

1 体をのりだして物を取るのはやめましょう



2 ベッドの上に立つのはやめましょう



3 靴はしっかりとはきましょう



4 動くものを手すり代わりにするのはやめましょう



5 ベッドに横になるときは、まずお尻から



●お見舞いの方へお願い●

うしろから急に声をかけられると、振り向こうとしてバランスをくずし、転倒することがあります。患者さんに声をかけるときは、前から話しかけましょう。



患者さんが使いやすいように置いてある品物や、はきものなどは、場所を変えないようお願いします。



17病棟

患者さん・ご家族のQOLを重視し、チームでの連携を組み合わせながら、
最良の医療が心地よく受けられるよう日々研鑽します



17病棟は、消化器科・脳神経外科の混合病棟であることから、急患入院が多いのが特徴です。上下部消化管出血や肝破裂・肝性脳症・脳梗塞・脳出血・クモ膜下出血など、急性的に起こる疾患で入院となることがほとんどです。急性期の状態で入院となった場合、密に観察することが必要であり、状態の変化があるために安全を守ることに配慮する必要があります。スタッフ同士で検討を行いながら、患者さん一人ひとりに合ったケアプランや安全策を立てています。消化器科・脳神経外科の医師と猪原師長を筆頭に、31名の看護スタッフ、クラーク含む看護助手5名で、他部門のスタッフとともに協力しながら、患者さんが一日でも早く社会復帰できるように努めています。

消化器科では

おもに肝臓疾患と消化器疾患に分かれており、それぞれ入退院を繰り返すケースが多いです。そのため患者さん・ご家族のメンタルヘルスサポートを大切にしています。

患者さんの状態に応じた検査が多く、毎日さまざまな検査が行われています。

* 肝 臓

肝生検・ラジオ波・エタノール注入法
内視鏡的食道静脈瘤結紮療法・硬化療法・血管造影

* 消化器

バルーン拡張術・内視鏡的胃粘膜切除術
内視鏡的粘膜剥離術・大腸ファイバー・胃カメラ
胃瘻造設術

脳神経外科では

おもに脳出血・くも膜下出血等術後および保存療法の患者さんが多いです。

急性期をICUで救命後、意識レベルや合併症の観察を行いながら、リハビリによる残存能力の向上をはかっていきます。著明に回復する場合や現状維持の場合もあり、患者さん・ご家族を含めた生活指導や、メンタルヘルスサポートも行っています。

最近では、ガンマナイフやブラッドパッチなど特殊な治療も増え、それにともない看護スタッフの専門性も高まっています。



病室で行う肝生検

多忙な業務の中であっても、スタッフ間のアットホームな雰囲気と明るい笑顔で患者さんのお世話をしています。大変な入院生活でも、安心して治療・看護が受けられるように日々心がけていますので、いつでも気軽にご相談ください。



胃薬の巻



病院や薬局で胃薬をもらったことはありますか？一口に胃薬といっても、種類によってその働きは異なり、症状に合わせて使い分けられています。それぞれの胃薬の働きや適した症状をご紹介します。

健胃薬

胃もたれ、胃部不快感、消化不良、食欲不振など胃の働きが弱ったとき

おもに生薬(漢方)が使われています。生薬の持つ独特の香りや、苦みなどが味覚神経を刺激して、反射的に唾液や胃液などを分泌させます。また、胃に直接作用して、胃酸の分泌を促すことにより、胃の働きを活発にします。

酸分泌抑制薬 (H₂ブロッカー、プロトンポンプ阻害薬)

胃痛、胸やけ、むかつき、もたれ

胃粘膜の壁細胞に存在し、胃酸分泌を調節しているH₂受容体やプロトンポンプに直接作用して、過剰な胃酸分泌を抑えます。

胃薬はそれぞれ患者さんの症状に合わせて処方されます。胃薬の中には、勝手な服用の中止により症状が悪化することがあるため、自己判断で服用をやめたりしないようにしましょう。

消化薬

食べ過ぎ、消化不良、食欲不振など

おもに胃液や腸液などに含まれる酵素と同じような作用をもつ消化酵素から成り、消化を助ける働きがあります。それぞれの消化酵素が分解できる食物の種類は限られているため、複数の消化酵素が配合されていることがほとんどです。

鎮痛鎮痙薬

胃がさしこむように痛いとき

胃の活動を支配している副交感神経を遮断する作用により、過剰な胃酸分泌や、胃の緊張による痛みを抑えます。

胃腸粘膜修復薬・制酸薬

胃痛、胸やけ、げっぷ、むかつき、胃部不快感など

胃腸粘膜修復薬は、損傷した胃腸粘膜を覆って修復したり、胃の血流を増加させることにより胃粘膜の再生力を高めます。そして制酸薬は、出すぎた胃酸を中和することで、胃内のpHを調整し、胃粘膜への刺激を抑えます。

17病棟担当薬剤師より



西村 亜紀子

17病棟では、おもに消化器科の患者さんの薬剤管理指導を行っています。患者さんのベッドサイドに伺って、使われる飲み薬や注射薬の説明をしたり、副作用が現れていないか、薬の飲み合わせは問題ないか、飲み方は間違っていないかを確認しています。



術後リハビリテーションスタッフ
鈴木 裕也 山内 康太 島添 裕史 熊谷 謙一

開胸開腹手術後 リハビリテーション

新日鐵八幡記念病院では2004(平成16)年より、開胸・開腹手術後における周術期理学療法を行っています。手術後は呼吸筋の障害や痛みにより、うまく咳や深呼吸が行えず、喀痰が貯溜してしまい、肺炎などの合併症をおこすことがあります。そのため理学療法士が、早期より離床・リハビリを実施し、手術後の合併症を予防しています。さらに、当院では手術前と同じ程度の体力の回復を目標とし、退院まで運動療法を継続しています。

手術前日 START



リハビリの説明を行います



6分間の歩行距離を測定し
体力を調べます

術後1日目～



リハビリ開始です

術後1～2日頃



ゆっくりとベッドを起こし
気分不良がないか調べます



痰がたまっていないか
肺の音を調べます



痰をだす練習をします



少し倦怠感や痛みがあっても
歩行練習が始まります

術後3～4日頃 歩けるようになったらリハビリ室で行います



固定式自転車で体力アップを
はかります



立ち座りの運動で
足の筋力アップをはかります

2～3週間後 退院前日 GOAL!!



リハビリは終了です
おつかれさまでした

今回の体験隊

リハビリテーション部 松永 裕也
リハビリテーション部 山内 康太
医事部 秋吉 裕美

リハビリの内容や、退院までの日数は症状によって異なります。

リハビリテーション部 TEL 093-671-9318

副院長新任のごあいさつ

4月より内科系副院長を拝命いたしました。

昭和55年に大学卒業後九州大学第2内科に入局し、肝臓病を専門に研究・勉強してきました。昭和62年米国国立衛生研究所に留学、帰国後平成2年6月より新日鐵八幡記念病院に内科医長として着任、平成6年より消化器科部長に就任し、21年間おもに肝臓病患者さんの診療に従事してきました。これまでも、地域の病院・施設・開業医の先生方とは密な医療連携を行ってまいりましたが、今後も石東院長の指導のもと、病院の理念・基本方針である病院スタッフ一同が最新・最良の医療水準をめざして研鑽に努め、チーム医療を推進し、さらに地域連携を大切にして、患者さんの安心・安全につながる診療を行っていけるよう支えていきたいと思ひます。よろしくお願いいたします。



副院長 梶原 英二

新任医師 紹介



血管病・フットケアセンター長
血管外科部長
三井 信介
＜専門＞
血管

4年ぶり、せいてつ病院への復帰です。血管病・フットケアセンターの立ち上げに尽力します。



腎臓内科部長
柳田 太平
＜専門＞
腎臓・透析療法
(血液・腹膜透析)

小倉生まれの小倉育ちです。検尿異常から透析まで、腎臓病全般の医療に携わっています。よろしくお願いいたします。



消化器外科主任医長
松成 康生
＜専門＞
消化器・内視鏡
(腹腔鏡)

おもに消化器の手術、最近ではとくに腹腔鏡での手術を中心にを行っています。よろしくお願いいたします。



呼吸器外科主任医長
塚本 修一
＜専門＞
呼吸器

研修医以来18年ぶりに、せいてつ病院勤務となります呼吸器外科の塚本です。初心に戻って頑張ります。よろしくお願いいたします。



皮膚科医長
豊田 美都
＜専門＞
皮膚科一般

大分出身、熊本大卒業で趣味はテニスです。人の輪を広げながら、急がず着実に貢献していきたいです。



泌尿器科医長
平田 晃
＜専門＞
泌尿器科一般

患者さんに信頼されるよう、努力を怠らなず頑張りたいと思ひます。よろしくお願いいたします。



耳鼻咽喉科医長
大蔵 謙治
＜専門＞
耳鼻咽喉科一般

平成13年九州大学耳鼻咽喉科入局です。地域の耳鼻科診療に貢献したいと思ひます。よろしくお願いいたします。



消化器科
森下 寿文
＜専門＞
消化管

はじめまして。自分は沖縄県出身で北九州で暮らすのは初めてです。早く環境にとけこめるように頑張ります。



循環器科
入田 英二
＜専門＞
循環器・高血圧

1年前お世話になりました入田です。3年目という大事な時をこの病院で経験できて嬉しいです。がんばります。



腎臓内科
吉水 秋子
＜専門＞
腎臓・透析療法
(血液・腹膜透析)

みなさんとのコミュニケーションを大切に、安心して治療していただけるように頑張ります。



脳血管内科
賣豆紀 智美
＜専門＞
脳血管障害

脳血管内科の“めずき”です。まだまだ新米の脳血管医ですが、フットワーク軽く頑張ります。



4月1日より26名の新任医師が着任し、診療に励んでいます。
ご心配なことがあれば気軽にご相談ください。

くわしくは当院のホームページ <http://www.ns.yawata-mhp.or.jp> 診療科紹介をご覧ください。



呼吸器科
かたひら かつゆき
片平 雄之
＜専門＞
呼吸器

呼吸器科に着任しました片平と申します。地域領域に貢献できるよう取り組んでいきたいと思ひます。



呼吸器科
えのきづ あいみ
榎津 愛実
＜専門＞
呼吸器

4月より呼吸器科医師として着任しました。少しでもみなさんのお役に立てるよう頑張つて参ります。



呼吸器科
たちわだ たかし
立和田 隆
＜専門＞
呼吸器

はじめまして。呼吸器科の立和田です。3年目でご迷惑をおかけすることもあると思ひますが、よろしくお願ひいたします。



外科
おくむら けんじ
奥村 幹夫
＜専門＞
消化器

はじめまして。多分にご迷惑をおかけするかもしれませんが、精進してまいりますので、よろしくお願ひいたします。



整形外科
かわもと たけまさ
川本 泰作
＜専門＞
整形外科一般

ひさしぶりに北九州の地に戻つてまいりました。精一杯がんばりますので、よろしくお願ひいたします。



皮膚科
かのう みき
河野 美己
＜専門＞
皮膚科一般

宮崎出身で現在4才・2才の二人の育児真っ最中です。福津市から通つています。よろしくお願ひいたします。



泌尿器科
ふじの みつよ
藤野 充絵
＜専門＞
泌尿器科一般

泌尿器科の藤野と申します。精一杯頑張りますので、よろしくお願ひいたします。



眼科
ひらかわ さやか
平川 沙弥香
＜専門＞
眼科一般

はじめまして。眼科の平川と申します。頑張りますので、どうぞよろしくお願ひいたします。



放射線科
きたの みちこ
北野 道子
＜専門＞
放射線診断学

生まれも育ちも北九州です。小さな頃から知っているこの病院で、頑張りたいと思ひます。よろしくお願ひいたします。



一年次研修医
しばはら ともや
芝原 友也

今年から2年間研修医として勤めさせていただきます。学ぶことだらけですが、一つずつ身につけて頑張ります。



一年次研修医
たにぐち ともひろ
瀧口 知浩

研修医1年目の瀧口です。医療スタッフ、患者さんとともに良い雰囲気の病院を作つていきたいです。



一年次研修医
たにぐち あやね
谷口 文音

2年間研修させていただく谷口です。まっすぐに駆け抜けようと思ひています。よろしくお願ひいたします。



一年次研修医
やぐち けんじ
八尋 健一郎

はじめまして。一生懸命がんばつて、実りのある研修生活にしたいと思ひます。よろしくお願ひいたします。



一年次研修医
かつはら しゅんすけ
勝原 俊亮

研修医の勝原です。北九州出身でこの度、広島から戻りました。地域に貢献できるよう努力します。



一年次研修医
つくだ まりこ
津田 麻理子

九大プログラムで1年間お世話になります。精一杯頑張りますので、よろしくお願ひいたします。

診療科目

内 科	消化器科	循環器科	糖尿病内科	腎臓内科	心療内科
脳血管内科	呼吸器科	小児科	外 科	消化器外科	呼吸器外科
血管外科	脳神経外科	整形外科	リウマチ科	形成外科	産婦人科
皮膚科	泌尿器科	眼 科	耳鼻咽喉科	放射線科	麻 酔 科

専門外来

内 科	神経内科／血液外来／甲状腺外来／ 膠原病外来／ペースメーカー外来／ 腹膜透析外来／禁煙外来	呼吸器科	SAS外来（睡眠時無呼吸症候群）	整形外科	リウマチ外来
心療内科	カウンセリング ／自律訓練外来	小児科	小児アレルギー／小児循環器／ 小児神経／小児腎臓／小児肥満／ 小児糖尿病（DM）	耳鼻咽喉科	めまい外来
		外 科	ペインクリニック	放射線科	放射線治療外来
				緩和ケア	緩和ケア外来
				女性診療外来	乳腺外来

休診日：日曜、祭日、第2・4土曜日

■ 予約センター：093-671-5489

全予約制

■ 夜間休日急患受付：093-672-3111

予約受付時間 8:00～16:00
当日予約は10:30まで

理念・基本方針を見直しました

前回の理念・基本方針の策定から5年が経過し、社会や医療環境も急速に変化してきました。そこで、院内外のみなさんの声を聞きながら、「安心・安全な病院づくり」をコンセプトとして、新しい理念・基本方針としました。（表紙に掲載）

- 患者さんの安心・安全を第一とし、より安心・安全な医療サービスを提供する病院であり続けます
- 安心・安全な医療サービスを提供するために、職員一人ひとりが安心・安全で働きがいのある環境づくりをめざします
- 患者さんと職員双方の安心・安全が病院の安心・安全につながり、さらに地域の安心・安全につながると考えます。

病院長 石束 隆男

釜石せいてつ記念病院に 医療支援物資を送りました

東日本大震災で、津波で港町が壊滅した岩手県釜石市に、当院と同じ新日鐵の企業立として設立された「せいてつ記念病院」があります。震災後も診療を継続させている同院に、透析用注射などの医療支援物資を届けました。



3月11日に発生しました東日本大震災で被災されましたみなさまに心よりお見舞い申し上げます。
一日も早い復興を願っております。

ペットボトルキャップをあつめて 世界の子どもたちにワクチンを届けよう！



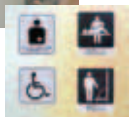
当院の環境保全・社会貢献活動にあたたかい善意がよせられています。これまでに子ども用ワクチン848人分を届けることができました。（4月11日現在）

ご協力ありがとうございます。
12月・1月・4月（2回）
鳴水市民センターのみなさん
4月
持田製薬（株）福岡支店北九州事業所
新日鐵化学（株）九州製造所のみなさん

コミュニケーションラウンジ あなたのご意見より

- 外科外来にあるストーマ用トイレが暗くて狭い。トイレは明るい方がいいと思う。

- ▲ 3月にトイレを改造しました。ご利用者のみなさんに気持ちよく使っていただけるよう、2つのブースを1つにし、広くて明るくなりました。



貴重なご意見ありがとうございました。

編集後記

東日本大震災では、ご家族やご自宅が被災されたにもかかわらず、病院職員の方々にはたらいっている姿を拝見し、胸にこみ上げるものがありました。あらためて病院の使命を感じました。
医事部 秋吉 裕美

こんにちは せいてつ病院です

発行日：2011年7月1日
発行部数：4000部

医療法人社団 新日鐵八幡記念病院
〒805-8508北九州市八幡東区春の町1丁目1-1

TEL 093-672-3176

http://www.ns.yawata-mhp.or.jp

編集・発行責任者：病院長 石束 隆男

● 広報誌へのご意見はこちらまで info@ns.yawata-mhp.or.jp

● 地域医療連携のお問い合わせ TEL093-671-9700

デザイン編集・印刷：よしみ工業株式会社 表紙イラスト：かわぐち たまよ